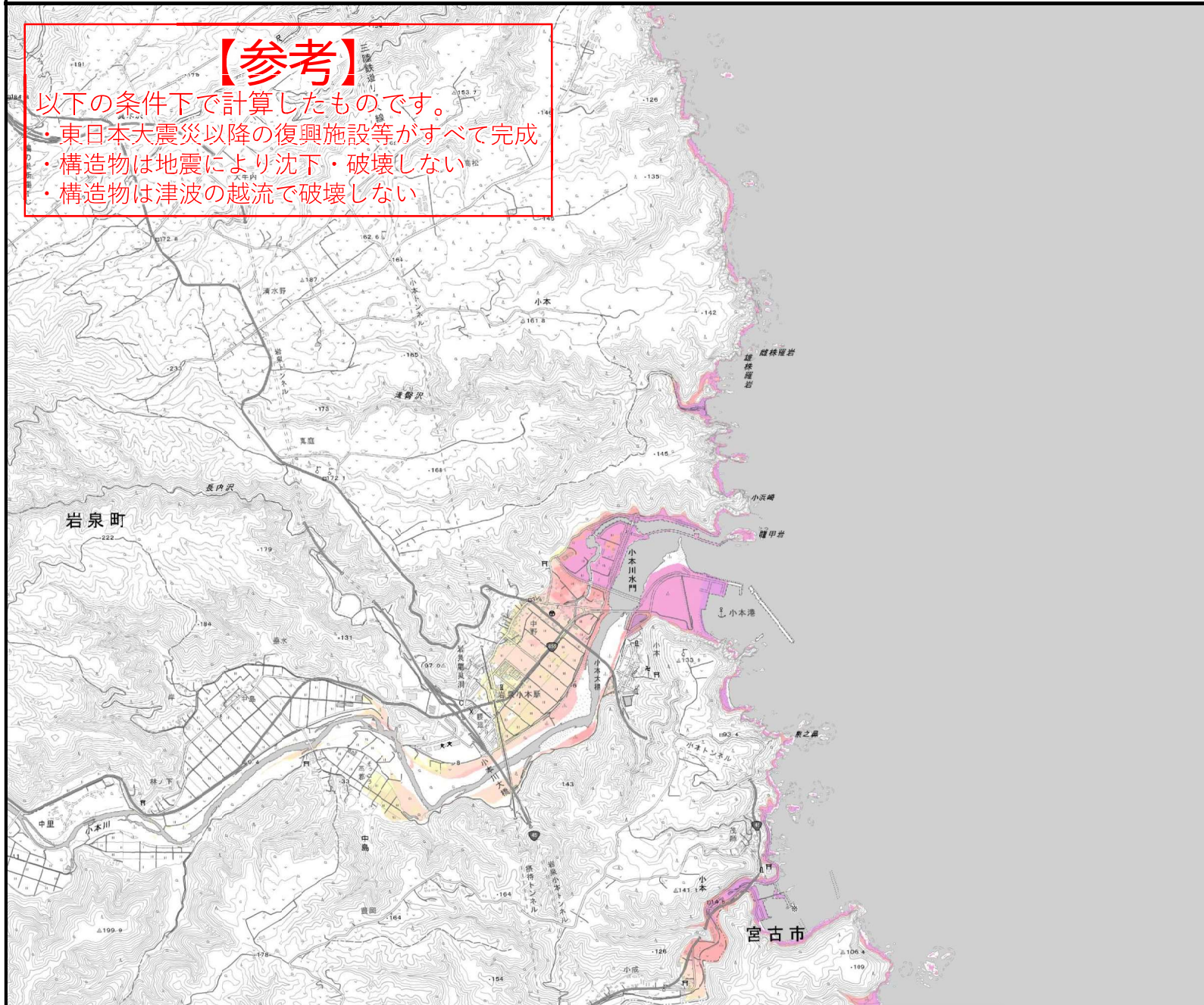


【参考】

- 以下の条件下で計算したものです。
- ・東日本大震災以降の復興施設等がすべて完成
  - ・構造物は地震により沈下・破壊しない
  - ・構造物は津波の越流で破壊しない



最大浸水深

20.0m以上
10.0m以上 20.0m未満
5.0m以上 10.0m未満
3.0m以上 5.0m未満
1.0m以上 3.0m未満
0.5m以上 1.0m未満
0.3m以上 0.5m未満
0.01m以上 0.3m未満



◆本資料は、防潮堤等の構造物を津波が越流しても破壊しないと仮定した場合の浸水域等を、参考のために計算したものです。

(注) 実際の現象では、防潮堤等が壊れる場合や壊れない場合があると考えられるが、仮に全て壊れないとした場合を参考として計算したものです。

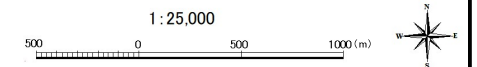
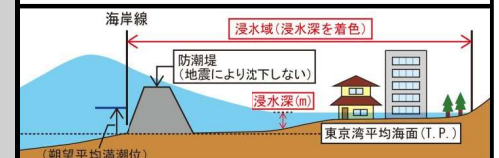
◆避難を軸にした総合的な津波対策を検討する場合は、別途示している「津波浸水想定」である防潮堤が破堤する条件での計算結果を用いる必要があります。

【「津波浸水想定」と同じ計算条件】

- ・最大クラスの津波が発生した場合に想定される浸水の区域（浸水域）と水深（浸水深）を表したものです。
- ・計算時の潮位を**朔望平均満潮位**で計算したものです。

【「津波浸水想定」と異なる計算条件】

- ・造成地や防潮堤等の東日本大震災以降の復興施設のうち、令和2年度末時点、未完成のものも**完成済み**として計算したものです。
- ・耐震性能や液状化の評価結果にかかわらず、防潮堤等の構造物は、地震により沈下・破壊しないものとして計算したものです。
- ・津波が防潮堤等の構造物を越流しても、構造物は破壊しないものとして計算したものです。



この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の電子地形図25000を複製したものである。  
 (測量法に基づく国土地理院長承認(複製)R3JHf494, 本製品を複製する場合には、国土地理院の長の承認を得なければならない。)